



中之島フェスティバルタワー(東地区)の暖かな煉瓦が街を柔らかに照らす。



フェスティバルシティ (中之島フェスティバルタワー(東地区)、 中之島フェスティバルタワー・ウエスト(西地区))

review

選 評

水都大阪の中核業務地区であり、かつ歴史が育んだ文化芸術の中心地である中之島に、新たなランドマークとなるツインタワー、フェスティバルシティが誕生した。

敷地は四つ橋筋を挟んで東西に位置し、南に土佐堀川、北に堂島川が流れている。この地にはかつて朝日新聞ビル、大阪朝日ビルそして新朝日ビルディングがあり、長く中之島を代表する建物として親しまれてきたが、施設の老朽化に伴い、都市再生特別地区の制度を活用して、東一休街区での開発を行うこととなった。

まず二〇一二年に東地区の中之島フェスティバルタワーが開業し、二〇一七年に中之島フェスティバルタワー・ウエストが開業した。両者は

東西それぞれ約九〇メートルの整形な敷地におよそ六〇メートルの平面、航空制限いっぽいの二〇〇メートルの高さで、ツインタワーとしては日本最大となる象徴的なランドマークとなっている。また統一されたモチーフとして、旧ビルのコーナー部の柔らかな円弧、ベージュ色の煉瓦、水平庇からなる外壁といった都市の記憶を引継ぎ、優美さと素材感が街区全体で体感される。

中之島フェスティバルタワー(東地区)は二、七〇〇席のフェスティバルホール、朝日新聞大阪本社、そして大阪のマーケットで貸しやすいセンタースタイルの超高層オフィスを擁し、これをオフィス中央コアの柱をフェスティバルホール上部で外周に広げるメガトラス構造を採用することにより、二三階のスカイロビーでは圧倒的な力強さが表現され、高層オフィス部分は一・八メートルピッチの細柱からなる開放感のある空間で三六〇度広がる眺望を満喫できるようになっている。また中之島フェスティバルタワー・ウエスト(西地区)は、東と同規模のオフィス・商業施設に加え、美術館・多目的ホール等の文化施設や高さ二〇〇メートルからの眺望を享受できるラグジュアリーホテルを内包している。東西二地区の完成により、地下広場をターミナルとしたふたつの地下駅と道路下の地下街との公共ネットワークが形成され、四つ橋筋沿いの公共的な大ピロティー空間も併



ツインタワー

〔2019年 第60回 BCS賞受賞作品〕愛知県立愛知総合工科高等学校／赤坂インターシティAIR(赤坂一丁目地区第一種市街地再開発事業)／OIST 沖縄科学技術大学院大学 フェイズ1／太田市民会館／オーディオテクニカ本社／GINZA SIX／新発田市新庁舎／新山口駅北口駅前広場「0番線」・南北自由通路／東京ガーデンテラス紀尾井町／東京ミッドタウン日比谷／富山県美術館／ナセBA(市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー)／HIRAKATA T-SITE／フェスティバルシティ(中之島フェスティバルタワー(東地区)、中之島フェスティバルタワー・ウエスト(西地区))／立命館大学大阪いばらきキャンパス



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2019年で60回を数えました。



建築主より

Message from Client

株式会社朝日新聞社 執行役員不動産担当
株式会社朝日ビルディング 代表取締役社長

宍道学 Gaku Shinji

芸術文化発信の伝統を次代に

大阪・中之島は、朝日新聞社が1885年から本社を置き、フェスティバルホールをはじめとする芸術文化の拠点としても市民に親しまれてきた特別な場所です。2007年4月、旧ビル3棟を高さ200mのツインタワーに建て替える「大阪中之島プロジェクト」を発表。10年がかりで完成させました。新生フェスティバルホールは高く評価された音響特性を継承するとともに最新設備を導入。新たな音楽の殿堂としてすっかり定着しました。ウエストには最高級ホテル「コンラッド大阪」を誘致、美術館などの文化施設と合わせ、中之島に賑わいを添えています。

朝日新聞社が中之島で培ってきた伝統を、最新の技術を満載した建築で引き継ぎ、次代につなげることができました。ツインタワーを見上げるたびに、この建物自体が中之島の街を彩る新たな文化的資産になったと実感しています。



設計者より

Message from Architect

株式会社日建設計
フェロー役員 デザインフェロー

江副敏史 Satoshi Ezoe

中之島のランドマークとなるツインタワー

大阪のメインストリート四つ橋筋を挟んだ2つの街区に同面積の整形な敷地が存在するという希有な条件のもと、道路を挟んで高さ200mのツインタワーを実現し、中之島の歴史を受け継いだ心に残る街の風景を創ることができました。四つ橋筋を挟んで天井高さ16mの両棟の劇場・美術館・ホテルなどへ誘うポルティコ空間を計画することで、このパブリックスペースが街行く多くの人に文化・芸術に触れる機会を提供しています。

両棟の低層部の壁面は温かな色合いの大型煉瓦で構成しました。煉瓦は中之島の代表的景観を形づくるのにふさわしい風格を持ち、それが時とともに深みを増し更なる価値を生み出していくことを期待します。ツインタワーは共通の高い耐震性能目標を掲げ、用途構成が異なるタワーごとに「中間層免震と巨大トラス」(東地区)、「低層階集中制振」(西地区)というそれぞれに最適な構造計画を採用することで実現しました。



施工者より

Message from Builder

株式会社竹中工務店
執行役員 総括作業所長

光枝良 Ryo Mitsueta

難工事を乗り越え 大阪の新たなランドマークへ

本プロジェクトは、東地区の解体から始まり西地区の完成まで約8年にも及ぶ非常に長い工事でした。技術的にも、中之島フェスティバルタワーでは、深さ80mの杭、2,700席のホール、その上部の中間層免震とメガトラスを有する高さ200mの超高層ビルの構築、またウエストでは、敷地の中を高速道路が通り、その上部の既存建屋の解体や隣接する超高層ビルの構築など、極めて難易度の高い工事でした。

事業主・設計者と本プロジェクトにかかる「想い」を共有し、「Let's 4C! (Change・Challenge・Courage・Communication)」「見せる仕事を魅せる現場から」という作業所スローガンのもと、工事関係者全員のものづくりに対する「想い」を結集し、無事完成することができました。この皆の「想い」が詰まったフェスティバルシティが、大阪の新たなランドマークとして多くの人々から愛されることを願っています。



1



2



3



4

1. エントランス 2. スカイロビー
3. ホワイエ 4. 音楽の殿堂フェスティバルホール

フェスティバルシティ
(中之島フェスティバルタワー(東地区)、
中之島フェスティバルタワー・ウエスト(西地区))
計画概要

- 建築主 (株)朝日新聞社、(株)竹中工務店
- 設計者 (株)日建設計
- 施工者 (株)竹中工務店
- 所在地 大阪府大阪市北区中之島2-3-18、3-2-4
- 竣工日 2017年3月31日

- 敷地面積 東地区：8,150㎡
西地区：8,377㎡
- 建築面積 東地区：5,410㎡
西地区：6,106㎡
- 延床面積 東地区：146,054㎡
西地区：151,146㎡

- 階数 東地区：地上39階、地下3階
西地区：地上41階、地下4階、
塔屋2階
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、
鉄骨造、鉄筋コンクリート造

〔選考委員〕 赤松佳珠子・青木茂・河野晴彦

都市の文化・記憶を継承し、最先端の技術で再開発されたフェスティバルシティは、新しい時代の水都大阪の象徴として長く市民に愛されていくことだろう。

ど数々の難しい課題を克服している。

せ持つことにより、多様な文化イベントを日常的に行える広場を都市に提供でき、賑わいを生み出している。

ツインタワーとして共通の高い耐震性能目標を掲げ、東地区は中間層免震と巨大トラス、西地区は低層階集中制振を採用。環境対策としては、堂島川から取水して熱交換を行い、空調用の冷水・温水を作り、使い終わった水を土佐堀川へ放水することにより大気への放熱がないという河川水利用冷暖房システムの採用など、数々の対策により国の省CO₂推進モデル事業にも採択されている。施工においても西地区における高速道路が貫通する建物の解体及び補強工事など